

(平成 29 年 10 月 20 日受付)

市街地の活性化について

■内容

現在、東京に住んでいる田辺出身者ですが、田辺へ帰省して感じる場合があります。東京多摩地区など、都市部の事例では駅前再開発が行われ、まちの活性化が図られております。市も駅前の空洞化を防ぐとともに、観光の更なる振興や中心市街地活性化を目指して検討できないでしょうか。

■回答

市は、平成 17 年 5 月の市町村合併により、世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」（平成 16 年に登録）を有するまちとなり、また、その広大な市域には、日本三美人の湯で知られる「龍神温泉」や、日本最古の湯といわれる「湯の峰温泉」など、多様な地域資源を有しております。これらを生かして、国内外への情報発信、J R 紀伊田辺駅隣の観光センターの整備や観光地のトイレ整備、案内板の設置等の受入れ体制の充実に取り組んできました。

そのような成果もあり、多くの外国人観光客が街なかを周遊されており、市内での外国人宿泊客数も平成 28 年では約 3 万人となり、前年比で約 4 割増となっています。

また、平成 28 年 10 月には、鬮雞神社を含め 5 か所が、世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」に追加登録されました。特に鬮雞神社については街なかであり、鬮雞神社を核とした観光客の誘客促進を図るため、現在、街歩きの拠点となる観光案内施設を整備しているところです。

加えて、鬮雞神社の世界遺産追加登録を契機とし、街なかのにぎわいを創出させるため、国で新たに創設された「景観まちづくり刷新モデル地区」の指定を受け、平成 29～31 年度の 3 か年で官民一体となって、田辺駅前周辺の景観修景をはじめとする、街なかのイメージを刷新する事業に取り組んでいます。

このようなハード整備と併せて、更に弁慶との関係が深い鬮雞神社、合気道の創始者の植芝盛平翁の顕彰像がある扇ヶ浜、南方熊楠翁の業績を顕彰している南方熊楠顕彰館を結んだ三偉人ゆかりの地を巡る等、街なか散策にストーリー性を持たせることも重要となることから、関係団体と連携しながら中心市街地の活性化に取り組んでまいりますので、今後ともご指導を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

【観光振興課 観光振興係】